

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多様な生活背景と学習面を含む様々な課題を抱えた生徒達、この生徒達の高校生活を頑張ろうとする思いを支え、自ら進路を切り開くたくましい社会人を育成する。

生徒達が高校生活を通じて将来への夢を育み、その実現に向けてチャレンジする力を育てる。

自尊感情の回復・育成を図ると同時に他者を理解し豊かな人間関係を築く力を育てる。

生徒の生活背景を理解し、一丸となって上記の学校像をめざす教職員集団が存在する学校づくりをすすめる。

## 2 中期的目標

- 1 学ぶ意欲を育み、基礎学力の定着を図る。
  - (1) 基礎・基本的事項の確実な定着を図る。
    - ア 学び直しの科目「教養A」をはじめとして全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。また、「教養A」の取組みと成果からすべての授業に普遍化できるものを学校全体で確認する。
  - (2) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図るとともに、生徒の学習習慣の確立を図る。
  - (3) ア 学ぶ意欲を育むため、わかる授業を全教科で創造していく。また、生徒の実態に即して、少人数展開授業や習熟度別授業などの効果的な活用を図る。
    - イ 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに教員一人ひとりの授業力を向上させる。
    - ウ 基礎学力の定着度を測定できるテストを実施し、各教科で学習内容の精選、再検討を行う。  
※生徒向け学校教育自己診断における授業に対する肯定的な回答を3年後には70%以上にする。  
※生徒向け学校教育自己診断における「教養A」の授業に対する肯定的な回答を3年後には80%以上にする。
- 2 夢を育み、将来構想能力の育成を図る。
  - (1) 卒業後の生き方を考えさせ、「夢」を育む力をつけてゆく。そのために、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」(以下「FC」)、教養体験、教養Cの内容を検討し、自尊感情の育成に加えて、自己認識が深まるような内容を検討していく。
  - (2) 造形コースの内容を充実させ、進路実現につなげる。
  - (3) 職業適性診断テストの実施も含め、全ての教育内容を通じて将来構想能力の育成を図り、生徒の将来の夢を育むとともに、進学から就職までの多種多様な進路希望を実現させるためのきめ細やかな指導を行い、進路未決定率を減少させる。  
※生徒向け学校教育自己診断における人の生き方に関する項目における肯定率を3年後には70%以上にする。  
※造形コース選択生徒の「美術」の授業に対する肯定的な回答80%以上を常に維持する。  
※生徒の希望する進路の実現率を3年後には80%以上にする。
- 3 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成を図る。
  - (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。
    - ア 遅刻指導を強化し基本的生活習慣の確立を期するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
    - イ 頭髪指導の徹底を図り、自転車の二人乗りをなくすなどの取組みを強め、地域に信頼される学校を確立する。
  - (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
    - ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
    - イ 部活動の活性化・充実をはかり、加入率を高める。
  - (3) 人権教育、国際理解教育をすすめ、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。
    - ア ESD学習を本校の生徒実態から再検討し、人間関係トレーニングとの連動を図る。  
※生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する項目における肯定率を3年後には70%以上にする。  
※遅刻総数を3年間で50%の減少をめざす。  
※生徒向け学校教育自己診断における学校行事に対する満足度を3年後には80%以上にする。  
※部活動の加入率を3年後には40%に近づける。
- 4 家庭、地域との連携を強化し、個々の生徒への支援体制を一層充実させるとともに、丁寧な生徒指導をさらに推進する。
  - (1) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。
    - ア 生徒の複雑な生活背景をつかむ取組みを進める。家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担当会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成及び充実を図る。
  - (2) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり
    - ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。
    - イ PTA活動を推進し、家庭との協力体制をさらに充実させる。
    - ウ 広報活動を活発に行い、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。  
※学力保障等の取組みと併せて3年後には中退率を3%以下に減少させる。  
※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を80%台で維持する。「お知り合いに本校へ進学を勧めたいか」の肯定的回答を3年後には70%以上にする。
- 5 教職員の資質向上とOJTの充実
  - (1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。
  - (2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。
  - (3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]   | 学校協議会からの意見   |
|--|--|
| <b>【学習指導等】</b><br>○「中期目標 1」に関わる学習指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。<br>「授業はわかりやすい」 生徒 62% (昨年度比 6 p 増)。<br>保護者 73% (昨年度比 10 p 増)。<br>「教え方に工夫をしている先生が多い」 | <b>【第1回：6月13日開催】</b><br>〈平成 27 年度学校経営計画について〉<br>・生徒に応じた授業の工夫がそれぞれの先生方で、なされている。<br>・造形コースという大阪府の普通科の中で特徴的なコースをもっている。<br>・造形に関する施設も日々充実してきている。<br>・新しい事も大事けども、北淀のカラーを活かしながら学校運営をされている。 |

生徒 64% (昨年度比 5 p 増)。

保護者 65% (昨年度比 1 p 増)。

一方、教員自身は「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努力をしている」が肯定的意見 87% (昨年度比 9 p 減)、「生徒の実態を踏まえ教科として指導方法や学習形態の工夫改善を行っている」が同 86% (昨年度比 3 p 減) となっている。

今年度は将来構想委員会で授業力向上に取組み、「個別アンケートの実施→分析結果の共有→教科毎の授業見学→研究協議で課題を共有」を行った結果、実際の授業は少しずつ分かりやすくなり、教員自身はもっと良い授業が出来るのではないかと気づいた事がこのような割合になったのではないかと。

#### 【進路指導等】

○「中期目標 2」に関わる進路指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。

「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」

生徒 59% (昨年度比 3 p 増)。

保護者 77% (昨年度比 6 p 増)。

「学校は進路についての情報を知らせてくれる」

生徒 70% (昨年度比 1 p 増)。

保護者 81% (昨年度比 4 p 増)。

「将来の進路について学ぶ機会があり熱心に指導している」

生徒 60% (昨年度比 7 p 増)。

一方、教員自身も「生徒一人ひとりが興味関心適性に応じて進路選択が出来るようきめ細かい情報提供を行っている」が 82% (昨年度比 1 p 増) となっている。いずれも増えているが、これに安心することなく、全ての項目で 80% を越えるようよりキャリア教育の取組みを進める必要がある。

#### 【生徒指導等】

○「中期目標 3・4」に関わる生徒指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。

「北淀高校に入学してよかった」生徒 78% (昨年度比 2 p 増)。

保護者 90% (昨年度比 4 p 増)。

「学校に行くのが楽しい」生徒 62% (昨年度比 1 p 増)。

保護者 83% (昨年度比 6 p 増)。

「いじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」

生徒 67% (昨年度比 3 p 増)。

保護者 77% (昨年度比 2 p 減)。

「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」

生徒 55% (昨年度比増減無し)。

保護者 58% (昨年度比 5 p 増)。

「国際理解・国際交流について学習する機会がある」

生徒 55% (昨年度比増減無し)。

保護者 46% (昨年度比 5 p 減)。

「部活動に積極的に参加」生徒 37% (昨年度比 2 p 減)。

保護者 35% (昨年度比 10 p 減)。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」

生徒 61% (昨年度比 3 p 増)。

保護者 71% (昨年度比 4 p 増)。

多くの項目で昨年度より肯定的意見が増えたが、生徒に寄り添う部分(「困っている事に真剣に対応」「気軽に相談できる先生がいる」)が停滞気味である。とり丁寧な指導が求められる。また「国際理解教育」の数値が伸び悩んでおり、取組みの改善が必要。部活動については、参加率は微増(後述)しているが、積極的な参加が弱く、より取組みの工夫が求められる。

#### 【その他】

○年度別で肯定的意見の割合を比較すると、生徒は昨年度より上がっている項目が多く(24項目中16項目)、保護者も昨年度より上がっている項目が多い(25項目中14項目)。教員は多くの項目において肯定的意見の割合が下がっている(26項目中18項目)。数値の下がった項目については、一概に取組みが停滞しているとも言えないが(【学習指導等】参照)、各分掌・学年・委員会・教科等において確認し、必要に応じて改善に向けて取り組んでいる必要がある。

〈進路指導について〉

・就職支援コーディネーターの採用により、基本的な履歴書の書き方から、就職に関する不安の相談まで、幅広く指導してくれている。

〈学力生活実態調査より〉

・出席、授業準備、提出物の項目全てにおいて今年は過去の年度にくらべ上向きで、意欲的な生徒が増加している。

・1日あたりの勉強時間について、1時間以上する生徒が増加している。

#### 【第2回 10月31日開催】

〈平成27年度学校経営計画進捗状況について〉

・1年生で物理は難しい状況が授業アンケートから見られる。

・地学は地震や災害などの増加もあり、教材が身の回りにあふれている。

・先生方は生徒と信頼関係を築き、プリントなどを工夫する指示をしている。

・生徒からの不規則発言への対応が、上手な先生が多い。

・授業成立、規律維持に力を入れてきた結果が伴ってきた。

〈校内組織について〉

・教員の事務量が多いので、是非とも合理化を進めていただきたい。

・昔と今の状況の変化に合わせて校務分掌も変えていくのは賛成。

〈遅刻指導の進捗状況について〉

・学年が上がるごとに、1人あたりの件数が増加する傾向。1年生での指導を強化し、全体としての減少をめざす。

〈中学校等への広報活動について〉

・新入生の中学校訪問は、6月に中学校へ新入生が母校を訪問することで、本校のアピールをしてもらっている。

#### 【第3回 2月6日開催】

〈平成27年度学校経営に係る自己評価案について〉

◎第2回授業アンケート結果

・今年度はどの教科も学校平均に近づき、各教科の平均点の差も小さくなってきている。

◎「学校教育自己診断」について

・現代のいじめについては、理解できないことが多い。

◎2学期における生徒指導全般について

・着実に遅刻は減っている。

・さらに遅刻を減らすにあたり、学期ごとに遅刻指導を実施する方向で検討している。

・外部の苦情が減ってきている。逆に女子生徒への盗撮等の被害が増えている。

◎校内表彰制度

・人命救助に関する表彰が3件ありました。全校集会で紹介しましたが、揶揄することもなく、とても暖かい雰囲気です。自然と拍手が起きていました。

〈平成27年度学校経営計画および学校評価について〉

・「北淀高校の方向性を考える」ということで職員会議後に、グループ討論をおこなった。ブレインストーミングで出た意見をまとめ、職員全体で共有化した。

・教員をしっかりとリードされ、校長先生の指導力を感じます。

〈平成28年度学校経営計画について〉

・昨年より数値目標が上昇すればという思いから、10%というような数値目標は避けた。

・生徒は、携帯を手から話さない。早く返事しないと責められることもあるため、ずっとさわっている。

保護者からの意見書 特になし

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標           | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価  |
|-----------------|---|---|---|---|
| 1. 学ぶ意欲と基礎学力の育成 | <p>(1) 基礎基本的事項の確実な定着</p> <p>ア、「教養A」のさらなる充実</p> <p>(2) 「わかる授業」をめざした授業改善と授業力向上への取組み</p> <p>イ、公開授業と授業アンケート等を活用した授業改善の推進と授業力の向上</p> <p>ウ、個に応じた学習指導の実践</p> <p>エ、各種検定の積極的な活用による生徒の自信と学習意欲の向上</p> <p>オ、学力生活実態調査の実施</p> | <p>ア・教養科の中心的な担当で会議を開き、「教養A」の学習内容が生徒の実態に即したものとなるように、絶えず改善を行う。</p> <p>イ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業、教員相互の公開授業、外部公開授業等をさらに活発に実施する。教員相互の公開授業では授業者に対する助言を作成する。</li> <li>・昨年度設置した校内組織が中心となって授業改善に向けた研修を推進し、全校を挙げて授業改善・授業力向上に向けた取組みをさらに充実させる。</li> <li>・ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業への集中を高め、より効果的な授業を行う。</li> </ul> <p>ウ・生徒一人ひとりの学力をより伸ばすために、習熟度別・少人数展開授業、チームティーチングのさらなる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学意欲の高い生徒に対して、1年時より長期休業前等に特別講習を実施する。</li> <li>・生徒の学習習慣の確立に向けて、生徒が放課後に校内で学習できる場(自習室・図書室等)の整備について取り組む。</li> </ul> <p>エ・授業等との連携により、各種検定(ワープロ、家庭等)への受験者数、合格率の向上を図り、生徒の自信と目的意識を高める。</p> <p>オ・実施とその後の検討会議で生徒の学力実態を的確に把握し、課題の発見と授業改善に役立てる。</p> | <p>ア・授業アンケート、学校教育自己診断において、「教養A」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(平成26年度71%)。</p> <p>イ・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答の前年度比10%増。(平成26年度「わかりやすい」56%、「授業に工夫」59%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業等の回数が前年度を上回ったか。授業者への助言の提出が前年度を上回ったか。(平成26年度：公開授業2回、助言21件)</li> <li>・授業改善に向けた取組みに広がり、深まりがあったか。</li> </ul> <p>ウ・実施教科・科目の授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(平成26年度：4点満点中数学I 3.1、C英語I 3.3) また、取組に広がり、深まりがあったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りに実施できたか。</li> <li>・生徒が放課後に校内で学習できる場の整備に進展があったか。</li> </ul> <p>エ・各種検定受験者数、合格率を昨年度以上にする。</p> <p>オ・各教科で具体的な課題を明らかにできたか。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートでは昨年度の評価が4段階で3.3であったのに対し、今年度は3.2であった。学校教育自己診断においても肯定的回答が68%と微減している。残念ながら目標は達成できなかったが、教養Aをさらに改善すべき意識は今年度後半に関係教員で共有化できた。昨年度に一定の改定を行ったが、現在、更なる改善内容の検討に入っている。(△)</p> <p>(2)</p> <p>イ・「授業アンケートの結果発表→個別の振り返りと管理職からの助言→授業力改善の取組み(教科で相互見学、課題の共有)」というサイクルを実施した結果、学校教育自己診断において、「授業はわかりやすい」生徒62%(昨年度比6p増)・保護者73%(同10p増)、「教え方に工夫をしている先生が多い」生徒64%(同5p増)・保護者65%(同1p増)となった。全て10%増とはならなかったがいずれも増えており、引き続き取り組んでいく必要がある。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業等の実施回数は2回、授業者への助言は37件となった。特に今年度は教科毎の相互授業見学を実施し、その成果と課題を教科で共有後に職員会議で全体でも共有した。(○)</li> </ul> <p>ウ・今年度も数学Iと英語Iで1クラス2展開の少人数授業を実施。授業アンケートの結果は数学Iが3.2、英語Iも3.2となった。数学は昨年より上回ったが、英語は下回った。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数展開授業は計画通りに実施。(○)</li> <li>・校内での学習の場については進路指導室横の展開教室4を中心に活用したが、来年度に向けては現在の進路資料室を整備することでより活用しやすい学習の場を保障していく。(○)</li> </ul> <p>エ・情報コースの各種検定は、昨年度の合格者数が77.9%だったのに対し、今年度は90.2%と大幅増となった。受験者数は昨年度が149名、今年度は102名と減っているが、コース選択者数が違うので一概に低い評価は出来ない。(○)</p> <p>オ・今年度の授業力向上の取組みは教科毎の取組みをベースとした為、各教科で成果と課題が明確になった。来年度以降もこの形態を基本として取り組んでいきたい。(○)</p> |

## 府立北淀高等学校

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2. 夢を育み、将来構想能力の育成を図る</p> | <p>(1) 夢を育む力をつける<br/>ア、生徒の社会認識、自己認識の促進<br/>(2) 造形コースの充実<br/>イ、造形コースの授業内容のさらなる充実<br/>(3) 生徒の将来構想能力の育成<br/>ウ、志学、キャリア教育のさらなる充実による個々の生徒にとって最適な進路の選択</p> | <p>ア・生徒の社会認識、自己認識を促進できる内容を入れるなど「FC（総合的な学習の時間）」等の充実を図る。<br/>イ・専門コース「造形」がより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。<br/>ウ・生徒の希望する進路実現に向けて、1年時からの系統的なキャリア教育プログラムの点検を行い、指導のさらなる充実を図るとともに、就職支援コーディネーターの活用を通して進路未決定率を下げる。</p> | <p>ア・FCの生徒の振り返りから「新しい発見があった」等、内容についての肯定的な意見が昨年度を上回ったか。(平成26年度:「人権教育」「進路学習」「国際理解教育」への生徒の関心度の平均63%)<br/>イ・授業アンケート、学校教育自己診断において、造形コースの生徒の「美術」に対する肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(平成26年度85%)<br/>ウ・新たな企画など指導に広がりや深まりがあったか。<br/>・学校教育自己診断において、キャリア教育に対する肯定的な回答の前年度比5%増(平成26年度53%)。<br/>・未決定率を5%以下に。</p> <p>(1)<br/>ア・FCについては、例年の取組みをもとに人権学習、進路学習、国際理解教育を中心に講演会・体験学習等を織り込みながら実施した。学校教育自己診断における「人権教育」「進路学習」「国際理解教育」へ生徒関心度平均が62%と昨年度ほぼ同様であった。一方、FCで使われる教材が以前と同じもので既に作成されてから時間が経っているものが多く、今年度後半から教養科と連携しながら取組みの改善の検討を始めた。その反映は来年度からとなる。(△)<br/>(2)<br/>イ・昨年度に引き続き陶芸台の整備などを行い、授業内容のさらなる充実を図った。今年度の授業アンケートの結果においては造形コースの生徒の「授業中は集中して先生の話聞き、積極的に参加している」と回答した平均が4点満点の3.4となっており、肯定的な回答の率は85%と昨年と同じ結果であったが、高い水準を維持している。また学外での美術工芸展等では入選や銅賞の受賞者も出て、造形コースを希望して進学してくる生徒も増えている。(○)<br/>(3)<br/>ウ・今年度は特に就職支援コーディネーターによる生涯賃金や生活に関する講座を設けるなど、キャリア教育の観点からの取組みを増やしたが、まだまだ1年時からの系統的なものとなっておらず、今後の課題である。(△)<br/>・学校教育自己診断におけるキャリア教育に関する肯定的な回答は今年度60%となり、昨年度より7%増となった。まだまだキャリア教育の取組みは弱い。各学年における現行のFCやHRでキャリア教育を意識した呼びかけの結果と思われる。(○)<br/>・進路については、以下の通りである。<br/>大学進学 37名(昨年度:31名)<br/>短大進学 9名(昨年度:8名)<br/>専門学校等進学 50名(昨年度:63名)<br/>就職内定率 76%(昨年度:69%)<br/>学校斡旋就職希望者で未内定者 0名(8名)<br/>全体を通して希望の進路実現が昨年より実現出来ている。進路未決定者が0(昨年度3)となった。(◎)</p> |
|---|---|---|--|

## 府立北淀高等学校

|                                |  |  |   |  |
|--------------------------------|--|--|---|--|
| <p>3. 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p> | <p>(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成<br/>ア、頭髪指導の徹底を図る<br/>イ、通学マナーの向上<br/>ウ、遅刻指導の強化<br/>エ、挨拶の奨励<br/>(2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上<br/>オ、学校行事のさらなる充実<br/>カ、部活動の活性化に向けた取組みの推進<br/>キ、「校内表彰制度」による顕彰<br/>(3) 豊かな人間関係をつくる力の育成<br/>ク、人権教育・国際理解教育のさらなる充実</p> | <p>ア・現行の頭髪指導を継続し、さらに指導の定着を図る。<br/>イ・学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。<br/>ウ・一昨年度に策定した指導方策に基づいて、全校を挙げて遅刻指導の徹底と定着を図る。<br/>エ・集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、朝の挨拶運動や日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気醸成する。また、挨拶についての新たな取組を検討、実施する。<br/>オ・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組を増やすなど、体育祭、文化発表会等の学校行事のさらなる充実を図る。<br/>カ・新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会をさらに充実させたり、4月に入部し損ねた生徒が入部しやすい機会を設けたりするとともに、部活動を行うことのメリットを伝える機会を新たに設ける。また、あらゆる機会をとらえて部活動を顕彰する。<br/>キ・一昨年度新設した「校内表彰制度」に基づき、頑張った生徒の顕彰に一層努める。<br/>ク・「F C (総合的な学習の時間)」を中心として、効果的な人権教育・国際理解教育を展開するとともに、人権教育・国際理解教育のさらなる内容の充実を図る。</p> | <p>ア・繰り返し指導を受ける生徒の数が昨年度(52件)を下回ったか。<br/>イ・新たな企画など指導に広がりや深まりがあったか。<br/>・近隣からの指摘の件数(平成26年度:7件)や通学マナーでの指導件数(平成26年度:重度のもの0件)が昨年度より減少(0件は維持)したか。<br/>ウ・遅刻総数前年度比20%減。<br/>エ・学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の意識(積極的に挨拶する:62%)に向上が見られたか。<br/>・新たな企画など取組みに広がりや深まりがあったか。<br/>オ・学校行事の満足度が昨年度を上回ったか。(平成26年度:63%)<br/>カ・啓発活動が効果的に実施できたか。<br/>・部活動加入率前年度比10%増。(平成26年度:25.3%)<br/>キ・「校内表彰制度」により表彰した生徒数100名以上。<br/>ク・実施後のアンケートで実施内容に対する否定的な回答を30%以下にする。また、生徒の感想やアンケートからどこまで生徒が考えたかを検証。<br/>・新たな企画など指導に広がりや深まりがあったか。</p> | <p>(1)<br/>ア・繰り返し指導を受ける生徒は69件となっている。昨年度より増えており、特定の生徒に指導が浸透していない。生徒への関わり方を総括し、引き続き丁寧に取り組んでいきたい。なお、例年の傾向通り、学期初めに違反者が若干増える傾向にはあるが、全員が指導には素直に従っている。(△)<br/>イ・今年は通常の学警連携による通学マナーの指導及び交通安全指導に加えて、区役所とも連携して盗撮被害防止のための学警区三者による登校時見守り指導を3学期初めの1週間に渡って実施した。(◎)<br/>・近隣からの指摘の件数は今年度12件、通学マナーでの指導件数は昨年度同様に0件であった。近隣からの指摘の件数は増えているが、以前に比べて法律違反の事例(喫煙等)に関する指摘ではなく「集まってるさい」等の内容に変化してきており、その度に丁寧に対応していている。(△)<br/>ウ・遅刻総数は15976件で、昨年度より14%減となっている。一昨年度からの取組みが徐々に定着してきているが、目標の20%減には届かず、来年度はより一層の家庭との連携・遅刻指導のシステムの改善(短期目標の設定等)を進めていきたい。(△)<br/>エ・学校教育自己診断において、挨拶に関する生徒の意識は63%となっており、昨年度に比べると微増である。今後も挨拶をしっかりとる生徒を育てるために様々な機会を通じて取組みを工夫していきたい。(○)<br/>オ・学校教育自己診断において、学校行事の満足度は70%となっており、昨年度より7pもアップした。特に今年は文化発表会で閉会式の開催・閉会式時に当日の様子をまとめたDVDを上映、そして各部門ごとのグランプリ表彰など、生徒の変化に合わせた取組みの工夫が功を奏したものである。(◎)<br/>カ・部活動加入率は29.9%となり、目標の10%増とはいかなかったが昨年を上回ることは出来た。特に今年は外部講師による部活動顧問研修・部活動部員研修を実施し、体験入部期間を増やすなどの工夫改善を実施できた。引き続き工夫改善に努めていきたい。(△)<br/>キ・校内表彰制度は最終的に99名となった。昨年度が125名。情報コースの資格検定合格者・皆勤者ともに昨年度より減少しており、それぞれの項目で来年度は生徒への働きかけをより強める必要がある。ただし、今年度は近隣住民からの御礼の電話(生徒に親切にされた等)が増え、これに伴う表彰も行った。(△)<br/>ク・51期生の振り返りアンケートによるとF Cの取組みに対しての肯定的意見が85%、否定的意見が15%であった。学年で生徒層に合わせたF Cの内容のアレンジをした事で、昨年度よりも更に否定的意見が減り、肯定的意見が増えている。(◎)<br/>・また、学校教育自己診断においては、「国際理解・国際交流について学ぶ機会がある」の肯定的意見が55%(昨年度55%)、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的意見61%(昨年度58%)、「人権について学ぶ機会がある」の肯定的意見62%(昨年度64%)となっており、取組みの理解という意味では横ばいである。そういう意味でも新たな企画など指導に広がりや深まりを持たせるべきであったが、そこまでの工夫改善は出来なかった。ただ、今年度後半より教養科とF C委員会で内容の見直しを始めており、一部は来年度実施する予定である。生徒実態に合った新たなF Cの内容構築を急いでいきたい。(△)</p> |
|--------------------------------|--|--|---|--|

## 府立北淀高等学校

|                                       |  |   |   |  |
|---------------------------------------|--|---|---|--|
| <p>4. 家庭、地域との連携の強化と丁寧な生徒指導のさらなる推進</p> | <p>(1) 生徒理解と中退防止の取組みのさらなる充実<br/>ア、大きな課題を抱えた生徒の組織的指導<br/>イ、教職員の指導力のさらなる向上<br/>ウ、中退防止<br/>(2) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり<br/>エ、地域清掃活動や地域交流活動の充実<br/>オ、PTA 活動の推進と家庭との協力体制の充実<br/>カ、広報活動の充実</p> | <p>ア・校内での組織的連携、家庭・中学校とのさらなる連携を進め、個別の指導計画を作成する。また、<br/>・教育相談室や保健室での生徒への丁寧な対応を通して、生徒が教育相談をさらに有効活用できるようにする。<br/>イ・精神科医師や大学の先生との事例検討会等を通して、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。<br/>ウ・担任団、特に1年担任団と管理職、他の組織との連携を一層深めるとともに、家庭との連携、外部機関との連携をさらに図り、スクールソーシャルワーカーの活用も通してさらにきめ細やかな指導を行う。<br/>・教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや業務の効率化を図る。<br/>エ・生徒、教職員、PTAが協力して地域の清掃活動をさらに活発化させる。フォークソング部、和太鼓部、ボランティア部等を中心に高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流活動を促進する。<br/>オ、保護者のパソコン・携帯電話へのメールマガジンの発行を新たに実施し、学校の情報が保護者によりよく伝わるようにすることによって、家庭との協力体制のさらなる充実を図る。<br/>カ・不本意入学の減少のために広報活動のさらなる充実を図る。</p> | <p>ア・各種連携および個別の指導計画に広がりや深まりがあったか。<br/>・「教育相談」に対する肯定的な回答が前年度比10%増。<br/>イ・昨年度に比べて、研修の内容等に広がり、深まりがあったか。<br/>ウ・中退率5%以下。<br/>・校務分掌・業務分担の見直しや業務の効率化の結果、生徒と向き合う時間の確保に効果が見られたか。<br/>エ・昨年度に比べて、取組みに広がり、深まりがあったか。<br/>オ・学校教育自己診断において、「教育情報の発信に力を入れている」に対する肯定的な回答が80%。(平成26年度72%)<br/>カ・新たな企画など、広報活動に広がりがあったか。</p> | <p>(1)<br/>ア・高校生活支援カードの活用と本校の従来からの取組みを併用しながら、生徒の状況把握に努め、入学後すぐの段階から個別の指導を行う事が出来ている。課題を抱えた生徒に応じて、支援委員会で指導方針を検討し、必要な場合は個別の指導計画を作成した。また、月1回来校のSCとの連携も行った。更に今年度はSSWに週1回来校いただいております、外部機関との連携等に尽力いただいた事で、生徒への指導に効果を上げる事が出来た。SSWには夏期の人権研修でSSWの役割と教員との連携について説明していただき、職員会議においても担当教員からSC・SSWの活用について説明をしている。教員もチーム学校の一員として、SC・SSWを活用して、生徒の学校定着に取り組んでいる。(◎)<br/>・学校教育自己診断において「先生は私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」の肯定的意見が67%(昨年度64%)、「担任以外にも保健室・相談室など気軽に相談できる先生がいる」の肯定的意見55%(昨年度55%)とほぼ横ばいか微増となっている。目標の10%増に至らなかったが、引き続き取組みを進めていく。(△)<br/>イ・精神科医師や大学の先生の協力を得て、昨年度に引き続き課題を抱えた生徒の指導についての教員研修を年4回実施する事が出来た。特に一般的な講義だけでなく、それに絡めて個別事例を挙げての実践的臨床的内容であった為、教員にとっても非常に分かりやすく、すぐに生徒対応に活かせる内容となってる。(○)<br/>ウ・中途退学者は昨年より4名少ない(26年度38名、27年度34名)。全体的に昨年度より学校に定着する傾向にあるといえる。(○)<br/>・今年度は将来構想委員会で組織改編を検討し、21あった委員会を17に減らし、1つの委員会の平均構成人数も12人から11人に減らす案を作成。教員全体の理解の上で、来年度から改編した組織で取り組むことにした。学校教育自己診断において直接この点に関する項目は無いが、「校務処理システムの導入は校務の効率化に役立っている」の肯定的意見が76%となり、昨年度より16%の大幅増になっていることから、校務の効率化については一定、教員の中で実感されていると捉えることができる。(○)<br/>(2)<br/>エ・例年通り、年2回の公園清掃を行ったが、昨年度の1回辺りの生徒の参加人数が60~80名だったが、今年は1回目105名、2回目85名と大幅に増えており、近隣の住民の方からも「皆さんが掃除してくれるから、私らも学校の周りを掃除しているよ」という声をかけていただくなど、地域連携にも大きく寄与できている。また、フォークソング部・和太鼓部が高齢者施設や幼稚園、支援学校等で演奏活動を行い、地域との交流活動もより活発に取り組んでいる。(◎)<br/>オ/カ・学校教育自己診断における保護者の「学校は、学年通信やホームページ等で教育情報の発信に力を入れている」の肯定的意見は73%で昨年度より1p増となった。今年度はホームページの一部リニューアルに取り組んでおり、生徒の日常の様子を判り易く伝えるように変更した点が評価されたものと思われる。なお昨年度からの懸案である保護者のパソコン・携帯電話へのメールマガジンの発行については、昨年度後半にPTA実行委員で試行的に実施をしたが、本校の保護者への情報発信の在り様としてはもう少し検討すべきという意見が出て、今年度は具体化を見送った。その分、学校での様子は毎月すべての保護者向けに発送している学年通信等で丁寧に伝えている。(○)</p> |
|---------------------------------------|--|---|---|--|

## 府立北淀高等学校

|   |  |  |  |   |
|---|--|--|--|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5. 教職員の資質向上とOJTの充実</p> | <p>(1) 人材育成<br/>ア、ミドルリーダーの育成<br/>イ、初任者等教職経験年数の少ない教員の育成<br/>(2) 築き上げてきた指導方策の継承<br/>ウ、OJTの充実<br/>(3) ICT活用能力の向上<br/>エ、ICTを活用した校務の効率化</p> | <p>ア・教育センターの研修なども利用し、ミドルリーダーの育成に努める。<br/>イ・首席等を活用し、初任者等の教職経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。また、授業改善のために組織した新たな校内体制のもと、全教職員相互の授業見学・改善の取組みの中で、特に初任者の育成に配慮をする。<br/>ウ・昨年度に作成した「本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策集」等を活用し、新転任の教員等に対して、OJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。<br/>エ・校務処理システム等ICTの活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。</p> | <p>ア・外部研修等を積極的に活用し、首席等につながる人材を育成できたか。<br/>イ・初任者の授業改善につながる授業分析や指導助言を複数回実施できたか。<br/>・初任者等の校内研究授業を年間2回以上実施できたか。<br/>・初任者等教職経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果(項目3～9の平均)が4点満点中2.8を上回ったか。初任者等による振り返りにおいて肯定的な意見が多かったか。<br/>ウ・計画的・組織的に研修を実施できたか。実施回数2回以上<br/>エ・校務処理システム等の活用が校務の効率化に役立っているとする教職員の回答が前年度(60%)比10%増。</p> | <p>(1)<br/>ア・教育センターの「リーダー養成研修」等を積極的に活用し、ミドルリーダーの育成に努めた。その結果、今年度は首席試験受験者を1名確保できた。今後の首席登用に繋がるものと期待している。(○)<br/>イ・初任者の授業改善については、管理職による授業見学と助言を2～3回行い、教科による授業見学と先輩教員による指導助言を行った。(○)<br/>・初任者等の校内研究授業は2学期後半に1回、3学期に1回の計2回実施できた。(○)<br/>・初任者等教職経験年数の少ない教員の授業アンケートの結果は3名の初任者の平均が3.11で全員2.8を上回っていた。また、初任者等による振り返りにおいても肯定的な意見が多きだされ、前向きに授業力向上に取り組む内容となっている。(○)<br/>ウ・「本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策集」そのものは使用しなかったが、そのポイントとなる「生徒の生活背景を知り、生徒に寄り添う」観点からの人権研修を2回実施し、いずれの研修も参加者の気付きにつなげる事ができた。また2学期末に指導方策集の内容をB4一枚にまとめた「北淀高校の生徒の背景・育てるべき生徒像」を配付し、3学期当初の職員研修でその内容を全員で検討し、現在の取組みの振り返りを行った。この結果、ベテラン若手双方から「良いOJTになった」という意見が出され、また振り返りで出た意見をプリントにまとめ全体で共有した。(◎)<br/>エ・学校教育自己診断において「校務処理システムの導入は校務の効率化に役立っている」の肯定的意見が76%となり、昨年度より16%の大幅増になっている。(◎)</p> |
|---|--|--|--|---|